

令和6年度
こころ医療福祉専門学校
学校自己評価結果報告書

令和7年4月1日

令和 7年 1月 31日（金） 令和6年度学生・教職員アンケート実施
令和 7年 3月 3日（月） 令和7年度学校経営目標 運営会議議題提出
令和 7年 3月 19日（水） 令和6年度学校自己評価報告書 起案提出

※教職員・学生アンケートと学校自己評価との連動基準

教職員・学生アンケート評価基準3.1～4.0 → 学校自己評価「4」

教職員・学生アンケート評価基準2.1～3.0 → 学校自己評価「3」

教職員・学生アンケート評価基準1.1～2.0 → 学校自己評価「2」

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

1. 学校の教育目標 令和6年度

- 1 ビジョン
地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる
- 2 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 3 重点教育目標
 - (1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%の達成
 - (2) 社会人基礎力を身につけた自立した職業人・社会人の育成
 - (3) 留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立
 - (4) 「学科目標シート」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化
 - (5) 学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保
- 4 具体的な対策
 - (1) 「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
 - (2) 自立する職業人への準備教育の推進
 - (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4) 国家試験・進路指導の充実
 - (5) 留学生教育の質の向上
 - (6) 「個人自己評価制」の導入による学校活性化
 - (7) 「攻めの学生募集」の推進－130名以上の学生募集
- 5 環境美化と地域社会等との豊かな関係づくり
 - (1) 環境美化活動の推進と心のこもったサービスの提供
 - (2) 学園ビジョン「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (3) 地域社会や関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
- (2) 自立する職業人への準備教育の推進
- (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
- (4) 国家試験・進路指導の充実
- (5) 留学生教育の質の向上
- (6) 「個人自己評価制」導入による学校活性化
- (7) 「攻めの学生募集」の推進－130名以上の学生募集

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」、「専門分野の深い知識」のみならず、「誠実、気力、知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく、人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される人材を輩出することで社会に貢献することが目的である。 【教職員アンケート 質問1 3.2】(3.4)
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	各学科とも専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、各業界との連携を重視し、理論と実践のバランスのとれた教育を実施している。各業界の現場で活躍する非常勤講師を豊富に揃え、学生に適切な現場実習の機会を提供するよう努めている。 【教職員アンケート 質問2 3.1】(3.0)
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後、さらに進行する少子高齢化に備え、老人福祉施設、医療機関や地域社会との密接な連携を推進し、社会のニーズに合った将来を見通した学校経営をしている。 【教職員アンケート 質問3 3.2】(3.2)
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	オープンキャンパス等の入学前ガイダンスを通じて、また、入学後も保護者説明会、オリエンテーション、定期的校内広報紙、HPでの情報公開等を通じて、繰り返し周知を図っている。全校生に対する学生アンケートを利用して、周知状況は確認している。 【教職員アンケート 質問4 2.7】(2.6) 【学生アンケート 質問1 2.8】(2.8)
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の運営にあたり、各学科と関連業界との情報交換は年間を通じての分科会も設定するなど、年々充実しており、将来的な業界のニーズに対する理解も深まっている。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように、各学科ごとのディプロマポリシーを定めている。 【教職員アンケート 質問5 3.0】(3.2)

①課題

「各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」について悪化している。

②今後の改善方策

学園ビジョンが「地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる」に変更になる。各学科の業界の動きも掴み、これまでの医療福祉系に留まらない社会的責任を果たすため取組みを増やしていく。

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長するという岩永学園グループの目的を実現するため、グループ内の社会福祉施設はもちろん、地域の病院、福祉施設、整骨院等の業界との連携を密にし、より実践的な教育を目指した運営方針が策定されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	事業計画は、地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関となるという学校の運営方針に沿って、毎年度初めに2年、3年後までの見直しをもった具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 2.8】(3.0)
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.1】(3.4)
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	従来から学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、現在、より機能を充実させた自社開発の新システムがほぼ完成し、運用を始めている。従来のシステムに比べて、さらに有効に機能している。 【教職員アンケート 質問13 2.8】(2.4)

①課題

「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」について悪化している。
「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」について悪化している。
「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について悪化している。

②今後の改善方策

コンプライアンス体制については、各種委員会においてより実質的な見直しをしていく。
また、情報システムの業務効率化について、設備投資も含めて引き続き改善していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、関連業界とも連携しながら社会に役立つ人材の育成に向けて、実践的な職業教育を意識して教育課程の編成と実施が実行されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じてより実践に近い形での教育が行われるよう工夫に努めている。 【教職員アンケート 質問17 2.9】(3.1)
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	臨床実習や介護実習を通して、産学連携による実践的な職業教育がなされている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	養成施設指定規則に基づき、資格取得に関する指導体制、カリキュラムなどが体系的に位置づけられている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	国家資格の養成施設指定規則に則り、適切な資格要件はもちろん、臨床指導力も優れた教員を確保している。 【教職員アンケート 質問23 2.3】(2.7)
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	教員の一部は、関連業界との連携を深め実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。関連業界とは教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会などを通じて、定期的に現場と学校教員との意識や知識の共有を図っている。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積み取り組みをしている。また、新任教職員に対して、全般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年年に3回全職員による教職員研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。

①課題

「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」について悪化している。

②今後の改善方策

教員確保については、新卒も含めて、年間を通して継続的な取組みを実施していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	資格取得率の向上は図られている。国家資格試験の合格率は、全体的に全国平均以上の結果である。 【教職員アンケート 質問28 3.3】(3.2) 【学生アンケート 質問3 3.2】(3.2)
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題を抱える学生およびその家族とは頻りに面談を行い、退学率の低減に努めている。 【教職員アンケート 質問29 3.0】(2.8) 【学生アンケート 質問4 2.7】(2.8)
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立っている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。同窓会組織のない学科でも、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生も広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。 【教職員アンケート 質問31 2.8】(2.6) 【学生アンケート 質問6 2.7】(2.7)

①課題

概ね改善している。

②今後の改善方策

「卒業後のキャリア形成」については、各学科とも研修の定期的な開催できているが、今後は、より効果的な内容での実施を目指していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	関係企業に呼びかけ校内で就職説明会を開くなど、在校生の就職活動を支援している。また、卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援に努めている。 【教職員アンケート 質問32 2.9】(3.3) 【学生アンケート 質問7 2.9】(2.9)
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1	クラス担任を通じた相談、心理カウンセラー窓口を通じた相談等、複数の相談窓口を整備している。 【教職員アンケート 質問33 3.0】(3.2) 【学生アンケート 質問8 2.9】(3.0)
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	私立専門学校授業料等軽減補助金(高等教育無償化)機関認定を受けている。また、各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的に行い、並行して経済的状況に応じた校納金分納の相談にも応じている。併せて、今年度は新型コロナに関する各種支援制度の活用を積極的に進め学生支援を実施している。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1	定期的な健康診断はもちろん、常勤看護師を中心とした衛生管理、生活指導委員会を中心とした安全・衛生指導を通じて、学生の健康管理の指導を徹底している。 【教職員アンケート 質問35 3.0】(3.1) 【学生アンケート 質問10 2.8】(2.8)
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	支援制度により学生団体活動が整備されていて、有効に機能している。 【教職員アンケート 質問36 3.0】(3.0) 【学生アンケート 質問11 3.0】(2.9)
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1	遠隔地からの通学者の支援を行っている。特に島原地区からは往復のスクールバスを運行している。また、最寄の駅から学校へのスクールバスを運行し通学への支援を行っている。留学生寮の設置及び整備を進めている。 【教職員アンケート 質問37 2.8】(2.8) 【学生アンケート 質問12 2.8】(2.8)
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1	入学前からの面談、入学後の保護者説明会、成績状況に応じた適宜の保護者面談等を通じて、保護者との連携を重視している。 【教職員アンケート 質問38 3.2】(3.0) 【学生アンケート 質問13 3.0】(3.0)
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1	不定期ながら、主に卒業生を対象に上級の専門知識や技能の公開講座を開いている。また、卒業生に対しても、就職や転職の情報交換の場を提供し、卒業後の支援にも努めている。(今年度は新型コロナのため実施していない) 【教職員アンケート 質問39 2.8】(2.5) 【学生アンケート 質問14 2.8】(2.8)
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1	学校が高台中腹にあり、通学に若干負担があるため、働いている社会人が多い夜間部の学生には、校内への車の乗入れを許可制にしている。また、最寄り駅に、迎いのスクールバスを出している。 【教職員アンケート 質問40 2.9】(3.0) 【学生アンケート 質問15 2.9】(2.8)
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1	高校でのガイダンス授業に加え、高校の要望に応え正規の時間割での定期的な出前授業を実施している。 【教職員アンケート 質問41 3.1】(3.0)

①課題

「学生相談に関する体制は整備されているか」について悪化している。
「学生の健康管理を担う体制はあるか」について悪化している。

②今後の改善方策

カウンセラーの更なる活用を図る。また、より相談しやすいように学生と教員の関係性を密にしていく。
健康管理については、留学生で体調を崩すこと多くっており、日々の生活管理まで含めて指導をしていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	3	2	1	施設基準は満たしており, なおかつ教室および共有区域などはスペースを確保している。備品の一部には開校以来の物もあり, 老朽化しつつあるものもあるが, 教育上の支障がないよう, 備品管理委員会が中心となって適時, 更新している。
・学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1	学外の必要な臨床実習施設は確保している。 【教職員アンケート 質問43 3.0】(3.0) 【学生アンケート 質問17 2.9】(3.0)
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。 【教職員アンケート 質問44 3.3】(3.0) 【学生アンケート 質問18 3.0】(3.1)

①課題

防災に対する体制整備について, 学生アンケートが悪化している。体制については継続しており, 裏を返せば, 学生の防災意識が高まっているといえ, その声に応える見直しが必要である。

②今後の改善方策

全職員による協働を目指していく。特に, 地域住民との兼ね合いも多い学科(日本語科、介護福祉科、キャリアビジネス科など)は, 学校だけのことではなく, 自治会との連携なども一層進めていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	高校新卒者の募集にあたって、入学試験を10月以降に実施しているが、出願については県の専門学校各種学校連合会での取り決めに沿う必要がある。その他、学生募集は適正に行われている。 【教職員アンケート 質問45 3.2】(3.3)
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において、卒業生の就職率、資格試験の合格率、退学率など、正確に伝えられている。 【教職員アンケート 質問46 3.2】(3.4)
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.3】(3.3) 【学生アンケート 質問19 2.8(2.8), 質問20 2.6(2.7)】

①課題

募集活動について教職員アンケートが悪化している。
全職員による募集活動が定着化しつつある中で、
より教育内容を広報できるような広報活動を加えていく必要がある。

②今後の改善方策

学生の採用者が急増している「国の高等教育修学支援新制度(無償化)」など、学納金の案内について見直しを行う。一方で、教育関係備品の価格高騰を受けて、学費諸経費の値上げも検討する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1	少子高齢化の中, 入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに, 経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	予算作成に際して, 理事長査定を実施し, 適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	3	2	1	適時, 内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

①課題

日本人入学者数が伸び悩んでいる。

②今後の改善方策

今後の日本人学生の減少をカバーするためにも, 新しい学科(キャリアビジネス科)への内部進学者希望者の掘り起こしをグループとして進めていく。退学者防止では, 対策(導入期)に一定の効果が出ており継続していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法, 養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており, 申請書, 届出書, 学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に, 情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて, 個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下, 各項目に対して, 自己評価を実施し, 各部署, 学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

個人情報のセキュリティについて課題が残る。

②今後の改善方策

個人情報保護について再度必要性及び制度趣旨を周知し管理していく。
学科学務担当者研修を継続して行い, 基本となる法制度の理解から日々の業務につなげていく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
<p>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していただいたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。</p>		
<p>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>ボランティア募集情報を全学生にも周知し、地域ボランティア依頼の受入れ、実施のシステムを構築している。学校を通じたボランティア募集による活動は、必要に応じて教員も引率を行い、把握している。 【教職員アンケート 質問57 3.0】(3.3) 【学生アンケート 質問21 2.9】(3.0)</p>		
<p>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。</p>		

①課題

トレーナー活動「ココサポ」を中心に、教職員学生ともにボランティア意識は高くなっているが、「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」について悪化しており、更なる環境整備が必要である。

②今後の改善方策

教員の学校外での活動が多くなっており、業務効率化も同時に進め業務停滞を避けるようにする。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	外国人留学生在が資格取得可能な学科については、留学生の受入れを積極的に行っている。資格取得学科に進学が可能となる日本語科も平成30年度から設置している。 【教職員アンケート 質問59 3.1】(3.3)
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	外国人留学生の受入れに関し、専門の職員を配し、現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し、適切な在籍管理を行っている。 【教職員アンケート 質問60 3.0】(3.2)
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	留学生担当の職員を配するほか、学科を横断した教員による留学生の学習、生活指導担当の委員会を作り、全校をあげての組織的な取り組みを行っている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	海外向けサイトの登録の他情報配信している。

①課題

留学生の就労管理・生活支援や健康管理について悪化している。

②今後の改善方策

学生の健康管理について体制構築を進めていく。
また、認定日本語教育機関申請に向けて環境整備の見直しを行っていく。

③特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和6年度重点目標に対する総括

(1) 授業の充実と国家試験合格率及び就職率の100%達成

- ①本年度の新任教員は0名で、2年目を迎えた教員も力量を発揮する等、学校としての「総合的な教育力」はアップした年度であったと評価している。
- ②学生の多様化・低学力化傾向の中で家庭学習の習慣化等「自学自習」の習慣化は、今後、学校を挙げて指導すべき課題と認識している。
- ③今年度も、国家試験合格率は、昨年度よりもアップしたとは言え、学科のバラツキの解消には至っていない。各学科の実質合格率は、理学療法科82.6%、介護福祉科36.1%(日本人83.2%、留学生12.5%)、スポーツ柔整科100%、スポーツ鍼灸科72.7%であった。また、日本語科のJLPT合格率は68%であった。学生への指導はしているものの、「国家試験への取りかかりの意識化・早期化」が喫緊の課題である。
- ④就職率は、売り手市場であり、今年度も良好であった。令和7年4月1日現在で、理学療法科が94.4%、介護福祉科94.6%(日本人91.7%、留学生96%)、スポーツ柔整科100%、スポーツ鍼灸科81.8%、日本語科95.4%(進学含む)であった。県内就職率は91.3%であった。
- ⑤各学科とも「国家試験等年間指導計画」に基づいて計画的・組織的な指導を進めている。授業以外に、補修・補講等、学力向上対策、定期試験・模擬試験後の個別面談等も実施している。

(2) 社会人基礎力を身につけた自立する職業人・社会人の育成

- ①今年度も、教育目標に「各学科の専門力と人間としての総合力」を育成することを掲げて、「真の職業人」の育成に努めた。「お客様第一の考え方ができること」「匠の教育を推進すること」「他人に納得してもらえる専門知識・技術を育むこと」を目標としながら、個々の学生の職業実践能力の育成を意図した教育を推進している。
- ②専門知識・専門技術教育と共に社会との橋渡し教育として人格の形成は、専門学校での責任と意識して取り組んでいる。「すべては日常にあり」という考えで、トレーナー活動、地域行事・ボランティア活動等に参加する機会をつくり、挨拶、礼儀、マナーや態度、心配り、気遣い等社会人基礎力の育成を図ってきた。
- ③教育課程編成委員会等からも期待されている「勤勉な勤務態度」、「豊かな人間力」、「気配りや献身的な施設」「主体的な学び」等に繋がる具体的な指導は不可欠である。「専門知識・技術」の修得と「豊かな人間力」は、本校の教育・指導の要である。
- ④本校の独自事業である「卒業教育」は、今年度で2年目の実施であった。その主たるねらいは、「卒業生のスキルアップ支援」、「同窓会等の交流と絆づくり」、「本校の広報活動」にある。研修会参加者総数は、昨年度と同様、93名であった。事業ニーズは高く、実に好評であった。

●本年度の改善した事項

- 各学科が、3月実施という駆け込み実施にならないように配慮した。
- 参加者の都合を考慮した研修機会を提供した。
- 本年度は、日本語科も「卒業研修」の取り組みに参入したことで、学科横断的な学校挙げての事業になった。
- 本年度は、現役学生の研修への参加を促したことで新たな学びに繋がったことの意義は大きかった。

(3) 留学生教育の充実と基本的生活習慣の確立

- ①本年度の留学生総数は、149名である。内訳は、介護福祉科が29名、日本語科が120名である。総学生数に占める留学生の割合は、38.1%であり、昨年度同時期比較で0.4%減少であった。
- ②今年度も、「留学生教育の質の向上」・「JLPT(日本語能力試験)4級以上全員合格」・「留学生のための進路開拓」を主な目標に掲げ取り組んできた。長崎校の令和4年12月4日実施の結果は次のとおりであった。その成果は、留学生の在籍管理が適正に行われていると認められるとして、令和6年11月6日付けで福岡出入国管理庁から適正校「クラス1」の指定をうけることができた。
- ③本校の令和6年度のJLPTN4以上の合格者は68%であり、昨年度比-3%であった。学力の多様化の中で、現在の学力別学級編成等に加えて、「基礎学力の定着」、「読解力の養成」、「ドリル時間の確保」等指導の工夫をしている。
- ④今年度も留学背の生活上の問題やオーバーワークもなかった。本学園独自の「生活の記録」と「留学生実態アンケート」(3ヶ月に1回実施)結果に基づいた個別面談や学科教員のきめ細かで効果的な指導が成果に繋がっていると評価している。また、関係自治会や地域住民の留學生理解を年々深まっており、精霊流し、地域清掃、連合自治会大運動会、年末餅つき大会等、地域行事やボランティア活動等に積極的に参加し、地域の高齢化の中で留學生が中心的な役割を果たしていることが地域に喜ばれている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和6年度重点目標に対する総括

⑤留学生の進路状況は、本年度は、以下の通りである。

○令和7年3月卒業予定者の進路状況－進路決定率94.5%

(令和7年3月12日現在)

- ①4年生大学－0名
- ②短期大学－0名
- ③専門学校－21名
- ④就職希望－1名(未定)

⑥本校留学生教育の課題の改善

- 留学生増加と進路の多様化への対応
- 日本語教育経験の浅い教員の研修
- 入学した学生への行き届いた生活指導の充実
- キャリア教育の推進
- 日常の健康管理と自己管理意識の高揚

(4)「学科目標シート」と「学校自己評価」による人材育成と学校活性化

①学園挙げて従来からの「学校自己評価」に加えて、本校独自の「学科目標シート」を令和5年度から実施している。

②令和6年度に見られる「学校自己評価」の特徴は、次の通りであった。

○総合評価－3.6(前年比0.1ポイントアップ)

○主な特徴

- ①教育課程編成委員会等の助言もあり、実践に近い形の教育が推進できた。
- ②養成施設指定規則に基づいた学校経営ができていたという評価を得ている。
- ③退学者は、昨年度比2名減であったが、本年度も課題として残った。特に、学科に偏り傾向があった。
- ④「卒後教育」の実施による卒業生支援の強化が、更に必要である。
- ⑤教職員の研修機会を提供し、更なる資質向上を図る。

③令和5年度から内容の実践と充実を図るねらいで各学科ごとの「学科目標シート」に変更した。各学科は、検討会(8月、12月、3月)を開く等「学科力の質の向上」を目指して取り組んだ。その結果は、学科のバラツキがあり、学科の意識と比例していると感じるものがあった。

(5)学園体制として取り組む学生募集－130名以上の学生確保

①本年度の学生募集の成果は、定員220名(日本語科を除く)に対して、129名で昨年度比7名増であった。
(新設のキャリアビジネス科を除く)

②入学者129名中、高校生が63名、社会人17名、留学生53名であった。例年になく、高校生の割合が48.8%と高かった。

③学科別では、理学療法科25名、介護福祉科43名、柔道整復科19名、鍼灸科22名、新設のキャリアビジネス科20名であった。

④定員充足率は、理学療法科62.5%、介護福祉科107.5%、柔道整復科63.3%、鍼灸科73.3%、キャリアビジネス科25%であった。特に、理学療法科・柔道整復科・キャリアビジネス科の募集については、次年度に向けた検討が必要である。

⑤令和7年度入学生募集の実績を見ると、次のようなことが言える。

○長崎市、諫早市、島原市の増加・五島市減少

長崎市－令和6年度入学生22名→令和7年度入学生30名－増加

諫早市－令和6年度入学生8名→令和7年度入学生10名－増加

島原市－令和6年度入学生1名→令和7年度入学生4名－増加

五島市－令和6年度入学生5名→令和7年度入学生2名－減少

○入学者幅の減少－こころ未来(－3名)、鎮西学院(－2名)、川棚(－2名)、五島海陽(－2名)

⑥辞退者－8名(日本人6名・留学生2名)と大幅に減少した。

⑦入学者確保のみならず、退学者を出さない対応が求められる。

○令和6年度の退学者数－13名(昨年度比－1名)(令和7年3月12日現在)

①柔道整復科－5名

②鍼灸科－5名

③理学療法科－3名

○主な退学理由

①進路変更－8名

②就職・病気等－4名

※学校カウンセラー等の支援も得て学生の相談体制・支援体制を強化、学級経営の充実の必要を感じている。

1. 学校の教育目標 令和7年度

- 1 ビジョン
地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる
- 2 学校経営スローガン
各学科の「専門力を含めた人間としての総合力」の育成
- 3 重点教育目標
 - (1) 絶え間なく教育の質の向上を図り、国家試験合格率・就職率100%の達成
 - (2) 社会人基礎力を身につけた「自立した職業人」の育成
 - (3) キャリアビジネス科を含む留学生教育の充実と進路開拓
 - (4) 「学校自己評価」と本校独自の「学科目標シート」による学科力アップと学校活性化
 - (5) 学校体制として取り組む学生募集－200名以上の学生確保
- 4 具体的な対策
 - (1) 「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
 - (2) 自立する職業人への準備教育の推進
 - (3) 退学者・不登校生の減少対策の推進
 - (4) 国家試験・進路指導の充実
 - (5) 留学生教育の質の向上
 - (6) 「個人自己評価」と本校独自の「学科目標シート」による学校活性化
 - (7) 「攻めの学生募集」の推進－200名以上の学生募集
- 5 環境美化と地域社会等との豊かな関係づくり
 - (1) 環境美化活動の推進と心のこもったサービスの提供
 - (2) 学園ビジョン「地域の全ての産業と高齢化社会を包括的に支援できる組織になる」の具現化
 - (3) 地域社会や関係各校、機関、施設等との連携強化

2. 令和7年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)「心のこもった誠実な教育」と「学びの主体性」の確立
 - ①学生の「させられる学び」から「自分からする学び」への脱皮
 - ②学生の多様化・学力低下傾向に対する初期対応策と学級経営の充実
- (2)自立する職業人への準備教育の推進
 - ①「心・技・体」を一体的に捉えた「巧の教育」の充実
 - ②人格形成を目指す人間教育と働きがい・生きがい等職業的実践教育の推進
- (3)退学者・不登校生の減少対策の推進
 - ①学生の自己肯定感と「自律」から「自立」に向けた支援体制の強化
 - ②個別面談や行き届いた指導による学生理解と退学者防止策の推進
- (4)国家試験・進路指導の充実
 - ①国家試験対策
 - 各学科の「国家試験年間指導計画」による組織的・継続的な指導の充実
 - 学習の習慣化・模擬試験準備学習強化と「学科会」・「学力検討会」等の開催
 - ②就職対策
 - 「社会人基礎力」の育成と職業意識の醸成
 - 本校独自の「導入期教育」と「卒後教育」・「トレーナー活動」等の充実
- (5)留学生教育の質の向上
 - ①キャリアビジネス科を含めた留学生教育の充実と進路開拓
 - ②本校独自の「生活の記録」と「留学生アンケート」等を通じた生活習慣の確立
- (6)「個人自己評価制」導入による学校活性化
 - ①「学校自己評価」や「個人目標シート」による学科のスキルアップと学校活性化
 - ②「情報の共有」(報告・連絡・相談)と「組織として機能する学校づくり」
- (7)「攻めの学生募集」の推進－200名以上の学生募集
 - ①全職員による広報・募集活動の推進
 - ②高校・整骨院等との信頼関係の構築－学校訪問, 情報提供, 広報啓発等